

動物実験に関する検証結果報告書

国立大学法人香川大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2025 年 3 月

日実動学-外検発 第 R7-7 号-報
2025 年 3 月 14 日

国立大学法人香川大学
学長 上田夏生 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉淳郎



対象機関：国立大学法人香川大学
申請年月日：2024 年 6 月 18 日
訪問調査年月日：2024 年 12 月 2 日
調査員：津田雅之、喜多正和、外丸祐介

検証の総評

国立大学法人香川大学は、教育学部、法学部、経済学部、医学部、創造工学部、農学部の6学部8研究科からなる総合大学である。動物実験は、研究基盤センター動物実験施設を中核とし、医学部、農学部において実施されている。「香川大学動物実験規則（以下「動物実験規則」という。）」の下、動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価、情報公開等が、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則して適正に実施されている。マウス・ラットなどのげっ歯類の他に、ブタやウシなど多様な実験動物が環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適切に飼養保管されている。前回検証時の指摘事項について改善に向けて積極的に取り組んでいる点、及び老朽化の著しかった研究基盤センター動物実験施設を2020年に改築し、計画的に対策を講じている点は高

く評価できる。一方で、小規模な飼養保管施設は、中核施設と比べて環境条件や維持管理状況などに改善を要する箇所が散見される。老朽化した施設の計画的な改修、小規模施設の環境条件や維持管理状況の改善を継続的に進め、飼養保管の集約化も検討されたい。今後も、動物実験委員会を中心に大学当局や事務局との連携を強めながら、実験動物に関する最新情報を反映させ、適正な動物実験の実施に向けた取組を一層促進されることを期待する。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
☒ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
☐ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
動物実験規則が定められ、その内容は基本指針及び飼養保管基準に則している。また、前回検証時の指摘事項は適宜改訂されている。したがって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
☒ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
☐ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
「適用除外」の条項については改訂を検討されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
8名の委員から構成される動物実験委員会が設置され、動物実験規則と「香川大学動物実験委員会規則（以下「動物実験委員会規則」という。）」に動物実験委員会の役割、構成等が定められている。前回検証時に指摘された、基本指針に定められている委員構成の3要件も明記され、これに対応している。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
☒ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
☐ 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見
3 要件それぞれの委員が確実に複数名となるよう検討されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 □ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験規則に基づき、「動物実験計画書」「動物実験計画変更・追加申請書」「動物実験報告書」「飼育施設設置等承認申請書」「実験室設置等承認申請書」「飼育施設・実験室廃止届」等、各種様式が定められている。また、動物実験委員会が「動物実験における実験処置に対する倫理基準」「哺乳類・鳥類及び爬虫類に属する実験動物以外の動物使用についての申合せ」「動物実験計画書審査マニュアル」等を定め、動物実験計画の立案、審査、実施等の手続きの円滑な遂行を図っている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 動物実験管理規則で定める各種様式とウェブ申請システムにおける様式の整合性をとるよう検討されたい。また、現在の実験状況にあわせ、動物実験計画書の特殊実験区分の選択肢を見直されたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「香川大学遺伝子組換え実験安全管理規則」「香川大学病原体等安全管理規則」「香川大学放射性同位元素実験施設放射線障害予防規程」「香川大学毒物及び劇物管理規程」など安全管理に注意を要する動物実験に関連する規程等が定められ、実施体制が整備されている。前回検証時の指摘事項である感染実験に対して、規則とともに委員会を設置し、実施体制を構築している。また、麻薬や向精神薬の使用について、行政への必要な手続きが行われている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- ☐ 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- ☐ 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験規則において、飼養保管施設が備えるべき要件が定められ、確認に必要な各種様式等も適正に定められている。また、各飼養保管施設には実験動物管理者が配置され、飼養保管マニュアル及び逸走時や災害時の緊急対応マニュアルなど危機管理に対するマニュアルも整備されている。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管手順書やマニュアルの内容について、飼育環境への順化や騒音の防止に関する事項を加え、さらに充実した内容に改訂することを検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

2014 年度に動物実験に関する相互検証を受検しており、今回が 2 回目である。前回指摘された部分は概ね改善されており、動物実験適正化に向けて積極的に取り組んでいることは高く評価できる。

Ⅱ．実施状況

1．動物実験委員会の活動状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験規則や動物実験委員会規則に基づき、動物実験委員会は動物実験計画書の審査、飼養保管施設や実験室の視察、教育訓練の実施、自己点検・評価等を適正に実施している。動物実験計画書の審査はウェブ申請システムにより円滑に実施され、動物実験委員会議事録や審査の記録も適切に保管されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

2．動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☐ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 基本指針や機関内規程に則して動物実験計画書の審査が実施され、2023 年度には 148 件の動物実験計画書が承認されている。動物実験の自己点検票と一体となった動物実験報告書が年度ごとに提出され、提出率は100%と動物実験の実施状況を的確に把握している。一部の動物実験計画に不備があったことに対し、動物実験委員会はその内容を把握し、再発防止のための対策を講じているが、まだ改善の余地が残されている。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☐ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会として動物実験の実施状況をより確実に把握するとともに、関係者への周知を

一層充実させることで再発防止を図られたい。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。
- ☐ 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

組換えDNA実験安全委員会や病原体等安全管理委員会には動物実験委員会の委員が含まれている。また、飼養保管施設に設置されているオートクレーブや安全キャビネットなどの定期点検も適切に実施されている。さらに、安全管理が徹底され、事故等の発生もない。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 該当する動物実験が適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。
- ☐ 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

組換えDNA実験安全委員会等の安全管理に注意を要する動物実験に関連する委員会と動物実験委員会との連携をより強化されたい。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☐ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物の飼養保管は、利用規則やマニュアル等に従って概ね適正に実施されている。各飼養保管施設において、実験動物飼養保管状況の自己点検を行っており、自己点検票も100%提出されている。また、微生物モニタリングも定期的に実施され、前回指摘された点も改善されている。実験動物飼養保管状況の自己点検票では重大な問題は認められておらず、一部で認められた飼育環境確保の不備についても、動物実験委員会として把握し、改善に取り組むことにより適正な飼育環境を維持している。したがって、実験動物の飼養保管状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。」とする。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

すべての飼養保管施設において、飼養保管手順書やマニュアルに従って飼養保管が適正に実施できるよう周知徹底されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各飼養保管施設は、基本指針や飼養保管基準等に則して概ね適正に維持管理されている。また、飼養保管施設のセキュリティや入退室の管理が適切になされ、動物実験委員会による定期的な視察も実施されている。前回検証時に指摘された研究基盤センター動物実験施設建物の老朽化に対して一部改修も行っている。一方で、農学部飼養保管施設や附属農場畜舎は老朽化が進んでいるものの、改修の目途が立っていない。したがって、施設等の維持管理の状況について、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。」との自己点検・評価結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- ☐ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

一部の飼養保管施設では、飼育環境や衛生管理のさらなる改善、整理整頓など必要な箇所が散見されるため、動物実験委員会による飼養保管状況の把握や指導を充実させるなど、管理体制の改善により一層努められたい。また、農学部飼養保管施設については、施設の改修等、中長期的な計画を策定し、大学として改善に向けて取り組まれたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会は基本指針や機関内規程に則した内容の教育訓練を実施しており、2023年度は学部学生を含め333名が受講し、教育訓練の実施記録も適切に保存されている。また、動物実験委員である実験動物管理者1名が、公益社団法人日本実験動物学会が主催する実験動物管理者等研修会を受講している。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

他の実験動物管理者においても、公益社団法人日本実験動物学会が主催する実験動物管理者等研修会を受講することを検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験に関する自己点検・評価」が実施され、香川大学ホームページ上のアクセスが容易な情報公開サイトに公開している。その内容は基本指針に例示された項目、国立大学法人動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会が公開を要請する項目を満たしている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

特になし。